

## 重症患者と遠方の家族をつなぐ — ICT 活用型オンライン面会システムの開発 —

看護学科 成人看護学領域 田口裕紀子 講師



### Q. どのような研究をされていますか？

A. 附属病院の高度救命救急センターの看護師とともに「重症患者」と「遠方にいる家族」に特化したオンライン面会システムの開発を目指す研究に取り組んでいます。この研究に取り組んだ背景には、COVID-19の影響で対面での面会が制限され、看取りの場面ですら家族が患者さんに会えない状況や、家族に十分なケアを提供できないことによる看護師の不全感が深刻な問題となったことがあります。重症患者の治療過程では、家族との面会は患者さんの回復促進や家族の心理的・情動的ニーズの充足において重要な役割を果たします。私たちはコロナ禍において、早期に医療者のサポートのもとで重症患者と家族がオンラインで面会できる体制を整備しました。その結果、自力で家族と連絡を取ることが難しい重症患者とその家族が、互いの声や表情を届け合うことが可能になりました。このシステムは感染対策による面会制限時のみならず、地理的な距離によって十分な面会が困難な家族にも有効であると考えています。

### Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 私たちは、コロナ禍における重症患者と家族のオンライン面会を支援し、面会制限のなかで重症患者の家族のニーズをどれだけ充足させることができるのかを明らかにしました。また、オンライン面会を通じて重症患者の家族が求める情報や直面する課題についても調査しました。さらに、面会制限の実施前後における看護師の家族看護の実践の変化を分析し、オンライン面会の有用性を検証した結果、対面による面会が困難な状況にある家族のニーズを満たし、看護師の家族看護を補完する可能性があることが示唆されました。



### Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 重症患者の多くは都市部の医療機関に集中しており、特に北海道のような広域地域では、遠方に住む家族が頻繁に面会することは困難です。コロナ禍を経てオンライン面会の活用は広がりましたが、重症患者に特化したオンライン面会システムは十分に普及しておらず、家族にとっての利便性や継続的な運用の課題が残されています。私たちは、「重症患者」と「遠方にいる家族」に特化した、医療機関で持続可能なオンライン面会システムの開発を目指し、その有用性を検証したいと考えています。この取り組みにより、地域間の医療格差の解消や家族参加型医療の推進に貢献するとともに、新時代の標準的な医療支援の一環として本システムを確立し、より多くの患者さんと家族を支え、医療者と家族の協働を促進することを目指します。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

- 成人看護学領域 URL

➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns\\_seijin.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_seijin.html)

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻成人看護学 URL

➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g\\_ns/ahfmc00000014di.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc00000014di.html)